

各地の
社協を
たずねて

地域づくり支援を切り口にした

福祉教育の新たな取り組み

江南市社会福祉協議会



▲子ども福祉塾参加者が買い物支援のために歩いて移動中

江南市社会福祉協議会（以下、「江南市社協」）は江南市から生活支援体制整備事業を受託し、生活支援コーディネーター（以下、「生活支援CD」）を第1層（市全域）に1名、第2層（日常生活圏域）に3名配置しています。生活支援CDは地域づくり支援として、区・町内会単位をベースに、地域の掘り起こし、居場所



▲ハッピーサロン木曜会の方へインタビュー

づくり支援、生活支援（見守りや買い物支援等）のサポートを行っています。

また江南市社協は福祉教育に力を入れ、従来の福祉実践教室等にとどまらず、福祉教育プログラム開発にも取り組んでいます。具体的には、学校が取り組む福祉教育の継続的なサポート事業や小学生が地域をフィールドに福祉体験を行う「子ども福祉塾」（全6回・定員20名）を開催しています。



▲買い物支援をきっかけに世代間交流中

今回は生活支援CDが地域づくり支援として関わり、活動の立ち上げをサポートした「ハッピーサロン木曜会」の方々と一緒に取り組んだ「子ども福祉塾」（10月）の内容をご紹介します。

子ども達へのミッションは、地域で暮らす高齢者へインタビュー、実際に買い物のお手伝いとし、様々な気づきや学びの機会となりました。

当日は3グループに分かれて、それぞれの高齢者世帯に電話で自己紹介をした後に、買い物リストを作成し、実際に薬局で買い物をして送り届けました。その後、「困りごと」「楽しみにしていること」「支えてくれる人」をインタビューし、買い物の大変さだけでなく、地域で暮らすことについて考える機会となりました。

当初は緊張していた子ども達や高齢者の方々も徐々に打ち解け、庭で育てた果物の育て方を教えるといった世代間交流の機会にもなりました。また、新たな試みとして、当日の様子を動画撮影し、YouTube（限定視聴）で保護者も視聴できるよう取り組んでいます。

江南市社協はこれからも福祉教育の新たな取り組みにチャレンジしていきたいと考えています。